

市内遺跡発掘調査報告書 4

鶴ヶ崎城跡	第 26・27 地点
新田遺跡	第 1 地点
朝日遺跡	第 4・5・6・7 地点
原遺跡	第 20・21・22・23・24・25・28 地点
竹駒神社境内遺跡	第 4・5 地点

例　　言

- 1 本書は、2021年4月1日から2023年1月31日までに実施した岩沼市内における発掘調査の成果をまとめたものである。
- 2 出土遺物の整理及び報告書作成については、2023年1月4日から3月10日まで、岩沼市文化財整理室にて行った。
- 3 本書のトレンチ番号は現地調査時に付したものを使用した。また検出遺構の略号は以下のとおりである。

SD : 溝跡 SK : 土坑 SX : 性格不明遺構 P : ピット
- 4 本書の執筆・編集は、生涯学習課内の協議の上、熊谷 篤が担当した。また、図表の一部を黒岩凌太が作成した。
- 5 発掘調査の実施にあたっては、宮城県教育庁文化財課をはじめ、各事業主・地権者の方々からご協力をいただいた。
- 6 土層、及び土器の色調は「新版標準土色帖」(小山・竹原: 1973) に拠った。
- 7 発掘調査の記録や整理した資料、出土遺物は岩沼市教育委員会が保管している。

調　　査　　体　　制

【令和3年度 調査体制】

教育長：百井 崇　　教育次長：大友 康弘

生涯学習課長：佐々木 拓也　　課長補佐：菊地 英樹

生涯学習課文化財係　主幹兼係長：川又 隆央　　主幹：武田 裕光

主事：熊谷 篤、星 綾香

調査補助員　　塩谷 信幸、斎藤 新彌、渡辺 幹雄（会計年度任用職員）

整理作業専従者　　菅原 健

【令和4年度 調査体制】

教育長：百井 崇　　教育次長：大友 康弘

生涯学習課長：野口 太郎　　課長補佐：菊地 英樹

生涯学習課文化財係　主幹兼係長：川又 隆央

主事：熊谷 篤、黒岩 凌太　　主事：星 綾香

調査補助員　　塩谷 信幸、斎藤 新彌、渡辺 幹雄（会計年度任用職員）

整理作業専従者　　菅原 健

目 次

例言

調査体制

第1章 遺跡の地理的・歴史的環境 ······ 1

第2章 令和3・4年度の調査成果

1. 鶴ヶ崎城跡	
A. 遺跡の概要 ······	3
B. 第26地点調査 ······	3
C. 第27地点調査 ······	5
2. 新田遺跡	
A. 遺跡の概要 ······	6
B. 第1地点調査 ······	6
3. 朝日遺跡	
A. 遺跡の概要 ······	10
B. 第4地点調査 ······	10
C. 第5地点調査 ······	11
D. 第6地点調査 ······	13
E. 第7地点調査 ······	14
4. 原遺跡	
A. 遺跡の概要 ······	15
B. 第20地点調査 ······	15
C. 第21地点調査 ······	16
D. 第22地点調査 ······	18
E. 第23地点調査 ······	20
F. 第24地点調査 ······	21
G. 第25地点調査 ······	22
H. 第28地点調査 ······	24
5. 竹駒神社境内遺跡	
A. 遺跡の概要 ······	25
B. 第4地点調査 ······	25
C. 第5地点調査 ······	27

引用・参考文献

抄録

挿 図 目 次

第1図 岩沼市遺跡地図.....	2	第21図 原遺跡（第20地点）位置図	15
第2図 鶴ヶ崎城跡（第26地点）位置図.....	3	第22図 第20地点断面図・トレンチ配置図	16
第3図 第26地点トレンチ配置図	3	第23図 原遺跡（第21地点）位置図	16
第4図『岩沼要害屋敷絵図』でみた第26地点の 位置.....	4	第24図 第21地点トレンチ配置図・断面図	17
第5図 第26地点トレンチ平面図・断面図	4	第25図 第21地点出土遺物	18
第6図 鶴ヶ崎城跡（第27地点）位置図.....	5	第26図 原遺跡（第22地点）位置図	18
第7図 第27地点断面図・トレンチ配置図	5	第27図 第22地点トレンチ配置図・断面図	19
第8図 新田遺跡（第1地点）位置図	6	第28図 原遺跡（第23地点）位置図	20
第9図 第1地点トレンチ配置図	7	第29図 第23地点トレンチ配置図・断面図	20
第10図 第1地点4トレンチ断面図・平面図.....	8	第30図 原遺跡（第24地点）位置図	21
第11図 第1地点6トレンチ平面図	9	第31図 第24地点断面図・トレンチ配置図	21
第12図 朝日遺跡（第4地点）位置図	10	第32図 原遺跡（第25地点）位置図	22
第13図 第4地点調査区位置	10	第33図 第25地点トレンチ配置図	22
第14図 第4地点柱状図.....	11	第34図 第25地点断面図	23
第15図 朝日遺跡（第5地点）位置図	11	第35図 原遺跡（第26地点）位置図	24
第16図 第5地点トレンチ配置図・断面図 ・柱状図	12	第36図 第28地点トレンチ配置図・断面図	24
第17図 朝日遺跡（第6地点）位置図	13	第37図 竹駒神社境内遺跡（第4地点）位置図	25
第18図 第6地点柱状図・トレンチ配置図	13	第38図 第4地点調査地点図・トレンチ配置図 ・トレンチ平面図・断面図	26
第19図 朝日遺跡（第7地点）位置図	14	第39図 竹駒神社境内遺跡（第5地点）位置図	27
第20図 第7地点トレンチ配置図・断面図	14	第40図 第5地点断面図	27
		第41図 第5地点調査地点図	28

第1章 遺跡の地理的・歴史的環境

岩沼市は宮城県南東部に位置し、東は太平洋を臨み、北は名取市、南は阿武隈川を隔てて亘理町、西は奥羽山脈から派生した陸前丘陵に含まれる高館丘陵で村田町・柴田町と市域を接する。また、本市は、古代東山道と東海道から延びる連絡路の結節点であったが、現在でも国道4号と同6号、JR東北本線と同常磐線の合流地点であり、交通の要衝地として知られている。

縄文時代の遺跡は、岩沼西部丘陵・長岡丘陵・二木・朝日丘陵に存在する。調査が実施された遺跡は少ないが、鶴ヶ崎城跡【23】では早期末～前期、山畑南貝塚【9】では中期～後期、下塩ノ入遺跡【14】では後期～晚期の土器が確認されている。

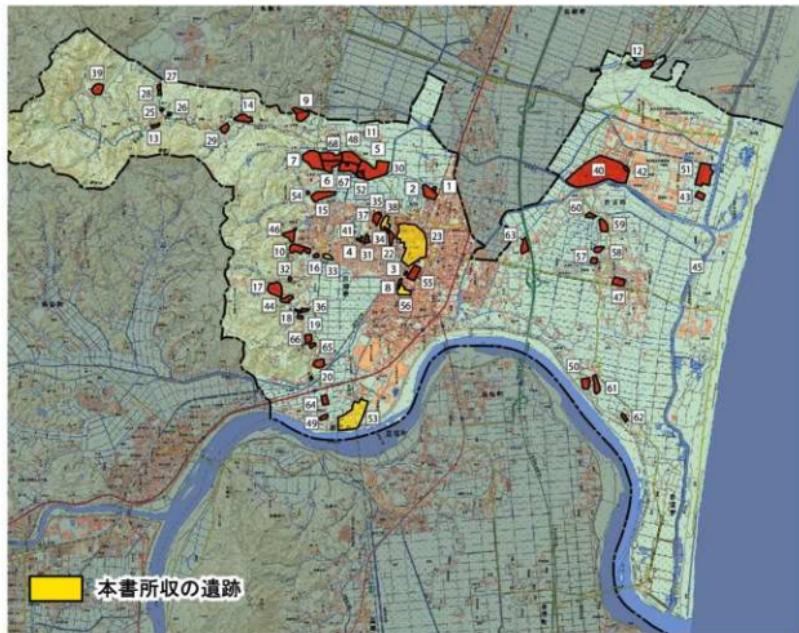
弥生時代の遺跡も調査が実施された遺跡は少ないが、鶴ヶ崎城跡では中期後葉と考えられる堅穴建物跡を検出し、十三塚式に比定される弥生土器及び石庖丁などの石器が出土している。また、朝日古墳群【37】では後期の天王山式の土器が確認されている。このほか原遺跡【53】でも出土量は少ないが、石庖丁や土器片が出土している。

古墳時代では集落遺跡として北原遺跡【7】、熊野遺跡【15】で前期集落が、原遺跡では後期から終末期の集落が確認されている。高塚古墳は、岩沼市史編纂事業に伴い調査を実施した県指定史跡かめ塚古墳【1】において、くびれ部付近の周溝の底面から木製鋤が出土している。横穴墓は岩沼丘陵から東西に派生する低位丘陵斜面の凝灰岩層露頭面で多く造営され、丸山横穴墓群【3】、二木横穴墓群【8】、長谷寺横穴墓群【10】、平等山横穴墓群【16】、引込横穴墓群【31】、土ヶ崎横穴墓群【22】などで調査が実施され、各横穴墓群から須恵器、土師器、金属製品、玉製品、人骨などが出土している。

古代の遺跡では、原遺跡の調査が近年注目を集めている。これまでの調査では掘立柱建物跡、材木跡、堅穴建物跡、溝跡などの遺構が発見され、多数の土師器・須恵器などの遺物が出土している。特に8世紀前半～後半にかけて機能していた掘立柱建物や区画溝は、主軸方位が正方位を強く意識していることが判明しており、須恵器円面鏡の出土と併せて『延喜式』にみえる「玉前駿家」、あるいは多賀城跡出土木簡に記載される「玉前剣」が存在していた可能性が推量される。

中世の遺跡は、鶴ヶ崎城跡、朝日古墳群、上根崎遺跡【30】、朝日遺跡【38】、下野郷館跡【40】、西須賀原遺跡【50】、丸山遺跡【55】及び刈原遺跡【61】などが確認されている。このうち下野郷館跡では志賀沢川沿いで実施した調査において、在地の白石古窯跡群の製品を中心とする中世遺物が多数出土しており、中世段階の集落が河川沿いに展開している可能性が考慮されるようになった。

近世の遺跡は、現在の岩沼市の姿と大きく関係していることから多数の調査成果がある。鶴ヶ崎城跡では第1地点において東北福祉大学による調査が行われている。ここでは、地鎮闇連の遺構として小穴に大堀相馬焼碗を正位で埋設し、これにかわらけ蓋をするように被せた状態のものを確認している。また、竹駒神社境内遺跡【56】では、礎石建物跡（現在の唐門）、掘立柱建物跡、柱列跡、通路状遺構、神事闇連遺構などを発見し、近世陶磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、土製品、金属製品及び木製品が出土した。本調査により、唐門の地下構造のほか、江戸期における社寺境内の空間利用のあり方を確認し、はじめて考古学的な手法によって竹駒神社境内変遷の一端が明らかとなった。



第1図 岩沼市遺跡地図

岩沼市域の遺跡一覧表

番号	道跡名	時代	番号	道跡名	時代	番号	道跡名	時代
1	小山の塙古墳	古墳	25	八森古道跡		47	新田東道路	奈良・中世・近世
2	小山の塙古墳	弥生・古墳	26	八森北古道跡	圓文	48	長坂古道跡	圓文・古墳・古代
3	鳥山横穴墓群	古墳	27	岡谷古道跡	圓文	49	南上嶺道跡	圓文・古代
4	白山横穴墓群	古墳	28	御谷田古道跡	圓文・奈世	50	西羽賀原古道跡	古代・中世・近世
5	新明塙古墳	古墳	29	官道下石道跡	圓文・奈世	51	高島古道跡	古墳・古代
6	杉の内蔵跡	弥生・古墳・古代	30	上長嶺道跡	圓文	52	長坂古道跡	近世
7	北原道跡	圓文・弥生・古墳・古代	31	引込横穴墓群	圓文・弥生・古代・中世	53	原道跡	古墳・古代
8	二本横穴墓群	古墳	32	吉田山道跡	小治	54	中ノ原道跡	中世
9	山崩坂古道	圓文・古代	33	新田道跡	圓文・弥生・古墳	55	丸山古道跡	中世・近世
10	長谷寺横穴墓群	古墳	34	石山横穴墓群	古墳	56	竹脇寺社周辺古道跡	中世・近世
11	星宿古墳	古墳	35	笠置横穴墓群	古墳	57	新里古道跡	古代
12	孫兵衛谷連道跡	古墳幽	36	御膳上原駁	圓文・古墳・古代	58	雨前道跡	古代
13	大日遺跡	圓文	37	御日古道跡	弥生・古墳・中世・近世	59	西十斗原古道跡	中世
14	下庵八道跡	圓文	38	御日道跡	古墳・古文・中世	60	前坂道跡	古代
15	御野道跡	古墳・古代	39	笠置古道跡	圓文・古文・中世	61	利根原古道跡	古代
16	平等山横穴墓群	古墳	40	新野道跡	古墳・古代・中世・近世	62	高原道跡	中世
17	新御跡	中世	41	白山塚	古墳?	63	中川道跡	古代・中世
18	御道上横穴墓群	古墳	42	越外道跡	古代	64	植道跡	古代・中世
19	相方泉道跡	弥生・古墳	43	上山道跡	古墳・古代	65	柳道跡	古墳・古代
20	長谷小指跡	近世	44	新御前道跡	圓文・古代	66	白道跡	圓文・弥生
21	土ヶ崎横穴墓群	古墳	45	西山駒(木兔駒)	古墳	67	長坂道跡	圓文・古墳
22	土ヶ崎横穴墓群	古墳	46	竹舟道跡	弥生・古墳・古代	68	上ノ瀬道跡	弥生・古墳・古代
23	御城城跡	圓文・弥生・古墳・古墳						

第2章 令和3・4年度の調査成果

1. 鵜ヶ崎城跡

A. 遺跡の概要

鵜ヶ崎城跡は、中世から近世を通じて幕末まで利用された城館跡である。岩沼西部丘陵から東へ舌状に派生した二木・朝日丘陵の東端に位置し、JR岩沼駅を含む東西約550m、南北約850mが遺跡範囲である。城には「岩沼城（館）」「岩沼要害」などいくつかの呼称が存在するが、遺跡としては「鵜ヶ崎城跡」の名称で登録されている。なお、本遺跡は、過去の調査において縄文時代の遺物包含層や弥生時代の竪穴建物跡なども発見されている複合遺跡である。

B. 第26地点調査

対象地は遺跡範囲の中央部東端付近に位置する。第2図に示しているように、本遺跡内ではJR岩沼駅の西側での調査事例が多く、駅東側での発掘調査は令和元年度に実施したAおよび令和2年度に実施した第24地点のみである。江戸時代に描かれた『岩沼要害屋敷絵図』（宮城県図書館所蔵）などの古絵図によれば、対象地は内小路と呼ばれる通りから奥州街道へと抜ける道の途中、丸沼堀に浮かぶよう描かれている舟形状の土地付近と推定できる（第4図）。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事に伴う発掘調査であり、令和3年6月24日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年6月30日付け文第938号通知）に基づき令和3年7月7日に実施している。

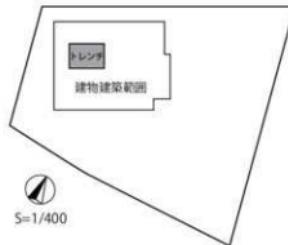
調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて盛土を除去した後、現地表下約45cmで2層及び3層を確認した。3層中にはガラス片などが認められたことから、さらに現地表下約70cmまで掘削を継続したところ、調査区の東側において地山層である8層を確認した。8層上面で遺構精査を実施したが遺構・遺物は認められず、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第2図 鵜ヶ崎城跡（第26地点）位置図



作業風景（西から）



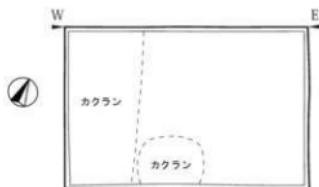
第3図 第26地点トレンチ配置図

第2章 合和3・4年度の調査成果

1. 鵜ヶ崎城跡（第 26 地点調査）

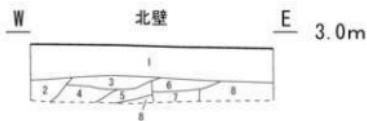


第4図 『岩沼要害屋敷絵図』(宮城県図書館所蔵)でみた第26地点の位置



トレンチ全景（南から）

S=1/60



トレンチ北壁面（南から）

土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	—	—	現代の盛土。
2	黒色	10YR2/1	炭化物層
3	褐色	10YR4/4	砂質シルト ガラス片、礫を多量に含む。
4	褐色	10YR4/4	砂質シルト 拳大の暗褐色粘上ブロックを多量に含む。
5	にぶい、黄褐色	10YR4/3	砂質シルト 褐色粘土の小ブロックを少量含む。
6	黒褐色	10YR3/2	炭化物を多量に含む。
7	にぶい、黄褐色	10YR4/3	シルト 下位に砂石を多量に含む。
8	黒褐色	10YR2/2	粘土 地山。鐵鉢をやや多く含む。

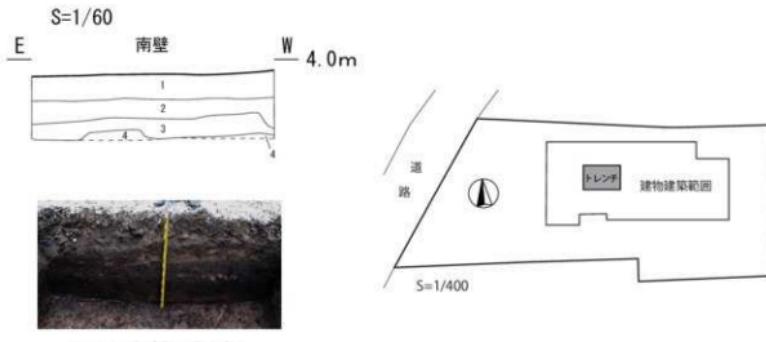
第5図 第26地点トレンチ平面図・断面図

C. 第27地点調査

対象地は遺跡範囲の北東部に位置する。江戸時代に描かれた『岩沼要害屋敷絵図』(宮城県図書館所蔵)などの古絵図によれば、対象地は「下中屋敷」として描かれている部分の一画であり、周囲を堀に囲まれた立地環境であったことが推定できる。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事に伴う発掘調査であり、令和4年12月13日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年12月23日付け文第2503号通知)に基づき令和5年1月26日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレーナーを設定し、重機による掘削を行った。現地表下約30cmで2層を確認したが、2層中には近現代の遺物が認められたことから、さらに現地表下約60cmまで掘削を継続したところ、平清水産の白磁型押皿や堤産の播鉢片など、19世紀代の近世遺物を含む3層を確認した。その後、3層直下では、にぶい黄褐色シルトを主体とする4層を確認し、4層上面で精査を実施したが遺構は検出されなかった。また、層位確認のために設定したサブトレーナーにおいても様相の変化などは認められなかったことから、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。なお、遺物の図示は割愛した。



トレーナー南壁面（北から）

土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	—	—	表土
2	暗褐色	10YR1/3	シルト しまり弱い。粘性弱い。健土粒。炭化物を微量に含む。近現代遺物を含む。
3	黒褐色	10YR3/2	シルト しまり弱い。粘性やや弱い。炭化物を少量含む。近世遺物を含む。
4	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト しまりやや強い。粘性やや弱い。酸化鉄を少量含む。

第7図 第27地点断面図・トレーナー配置図

2. 新田遺跡（第1地点調査）

2. 新田遺跡

A. 遺跡の概要

新田遺跡はJR岩沼駅から西へ約1.3km離れた北長谷字新田に位置する。周辺には長谷寺横穴墓群や平等山横穴墓群などが所在し、遺跡範囲は東西約250m、南北約200mで、標高は6～10m前後である。

本遺跡地では昭和50年（1975）から宅地造成が行われ、現在ではそのほとんどが宅地となっている。これまで発掘調査が行われたことはないが、過去には縄文土器片や須恵器片、石鏃などが表面採集されている。また、岩沼市史編纂事業に伴う踏査により、従来の遺跡範囲に隣接した箇所で縄文土器が発見されたことから、令和4年6月3日付け文第601号で通知のあった「遺跡範囲の訂正について」に基づき、遺跡の適切な保護を目的とする遺跡範囲の訂正が行われている。

B. 第1地点調査

本件の対象地は、遺跡範囲西側の大部分を占めている。提出された協議書等によれば、開発の基本計画は策定中であるものの、切土及び盛土等による宅地造成工事が予定されていた。本遺跡地では、これまで発掘調査によって得られた知見は皆無であったが、地形や周辺の遺物散布状況を勘査すると、対象地に未発見の遺構・遺物が存在している可能性も十分に考えられた。このため、令和4年7月27日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和4年8月2日付け文第1247号通知）に基づき令和4年9月21日から翌22日にかけて発掘調査を実施した。

調査では、2m×4mのトレンチを8か所設定し、いずれも重機を用いて表土や現代盛土層の掘削を行った。その後、人力によって地山である凝灰質ローム層の上面まで掘り下げて遺構精査を行い、図面作成や写真撮影などを随時実施した後、9月22日に埋め戻しを行い調査を終了した。



第8図 新田遺跡（第1地点）位置図



調査開始前の状況（北から）



調査開始前の状況（東から）



第9図 第1地点トレーンチ配置図

1 トレーンチ

1 トレーンチの調査は9月21日に実施した。設定したトレーンチは東西2m×南北4mで、標高は約7.7m程度である。重機で耕作土や現代の盛土層の掘削を行ったあと、現地表面から約60cm下で確認された青黒色粘質シルト層の上面で遺構精査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。なお、この青黒色粘質シルト層以下は凝灰岩の岩盤である。

2 トレーンチ

2 トレーンチの調査は9月21日に実施した。設定したトレーンチは東西2m×南北4mで、標高は約7.8m程度である。重機で耕作土や現代の盛土層の掘削を行ったあと、現地表面から約95cm下で確認された青黒色粘質シルト層の上面で遺構精査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。なお、この青黒色粘質シルト層は1 トレーンチでも確認されているが、層中にはビニール紐などの現代遺物が含まれる。また、1 トレーンチと同様に青黒色粘質シルト層以下は凝灰岩の岩盤である。

3 トレーンチ

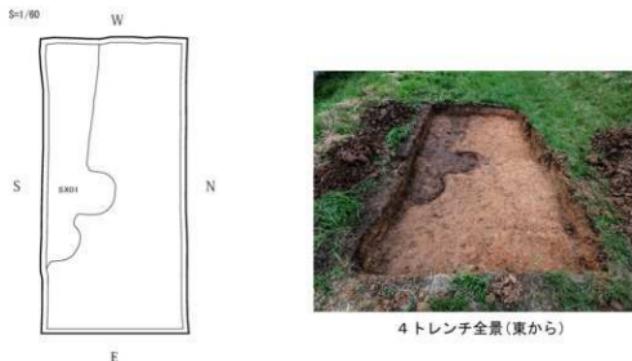
3 トレーンチの調査は9月21日に実施した。設定したトレーンチは東西4m×南北2mで、標高は約7.8m程度である。重機で耕作土や現代の盛土層の掘削を行ったあと、現地表面から約65cm下で凝灰岩の岩盤を確認している。遺構・遺物は発見されなかった。

第2章 合和3・4年度の調査成果

2. 新田遺跡（第1地点調査）

4 トレンチ

4 トレンチの調査は9月21日に実施した。設定したトレンチは東西2m×南北4mで、標高は約10.8m程度である。重機で耕作土の掘削を行ったあと、現地表面から約15cm下で確認された黒褐色シルトを主体とする1層上面で遺構精査を実施した。遺構はSX01性格不明遺構を検出したが、これは樹木の根痕のような性質のものかと推察される。遺物は、1層中から弥生土器、土師器片及び無釉陶器片が1点ずつ出土した。いずれも小片ではあるが、そのうち弥生土器のみを掲載した。



第10図 第1地点4トレンチ断面図・平面図



4 トレンチ出土遺物（弥生土器）

4 トレンチ出土遺物観察表

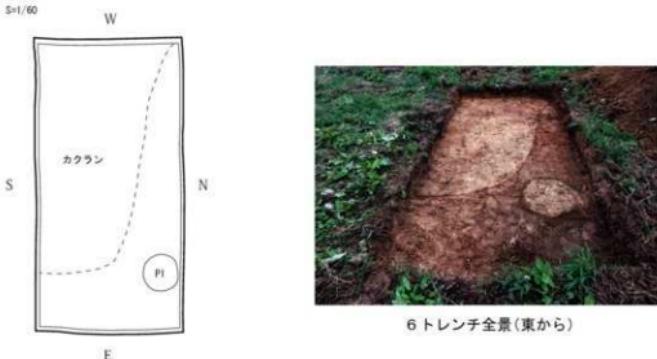
番号	組部・層位	種別	計種	特徴
1	表土層削時	弥生土器	鉢?	残存部分の高さは3.2cm。保存状態極めて悪い。蓋の可能性もある。

5 トレンチ

5 トレンチの調査は9月22日に実施した。設定したトレンチは東西2m×南北4mで、標高は約9.7m程度である。重機で耕作土の掘削を行ったあと、現地表面から約10cm下で確認された地山である凝灰質ローム層の上面で遺構精査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。

6 トレンチ

6 トレンチの調査は9月22日に実施した。設定したトレンチは東西2m×南北4mで、標高は約9.7m程度である。重機で耕作土の掘削を行ったあと、現地表面から約10cm下で確認された地山である凝灰質ローム層の上面で遺構精査を実施した。トレンチの大部分は擾乱されていたが、北東部分では年代不明のピットP1が検出されている。遺物は発見されなかった。



第11図 新田遺跡（第1地点）6 トレンチ平面図

7 トレンチ

7 トレンチの調査は9月22日に実施した。設定したトレンチは東西2m×南北4mで、標高は約12.3m程度である。重機で耕作土の掘削を行ったあと、現地表面から約10cm下で地山である凝灰質ローム層凝灰岩の岩盤を確認している。遺構・遺物は発見されなかった。

8 トレンチ

8 トレンチの調査は9月22日に実施した。設定したトレンチは東西2m×南北4mで、標高は約12.3m程度である。重機で耕作土や現代の盛土層の掘削を行ったあと、現地表面から約30cm下で遺構精査を実施したが、遺構・遺物は発見されなかった。

3. 朝日遺跡（第4地点調査）

3. 朝日遺跡

A. 遺跡の概要

朝日遺跡はJR岩沼駅から北西へ約0.6km離れた朝日一丁目に位置する。周辺には朝日古墳群や土ヶ崎横穴墓群などが所在し、遺跡地内には曹洞宗寺院である法常寺の境内も含まれている。遺跡範囲は東西約240m、南北約350mで、標高は3.5～22m前後である。

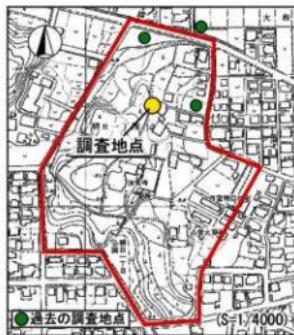
平成24年度に実施した住宅建築に伴う調査では、溝跡や複数の小穴、中世の水田耕作土と思われる堆積層などの遺構が確認され、弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器などの遺物が見つかっている。

B. 第4地点調査

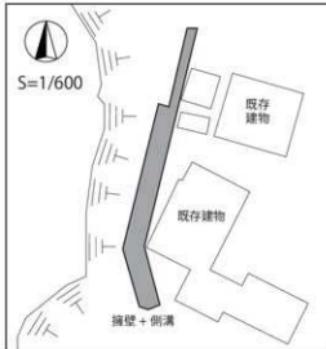
対象地は遺跡範囲の中央部北寄りに所在する。地形的には岩沼西部丘陵から派生する二木・朝日丘陵裾部の崖下に位置する。

本件は、遺跡範囲内における擁壁築造工事のための発掘調査であり、令和3年4月15日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年4月21日付け文第185号通知）に基づき令和3年5月11日に実施している。

調査は対象地内の工事施工範囲を調査区として、1～3層までを重機と人力にて掘削した。現地表面下約70cmまでの掘り下げを行ったが遺構・遺物は発見されず、凝灰岩を基盤とする岩盤面を確認したのみであった。このことから、本地点は丘陵部分を大きく削平した箇所であると考えられ、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第12図 朝日遺跡（第4地点）位置図



第13図 第4地点調査区位置図

S N



第14図 第4地点柱状図



調査区西側壁面（東から）

土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	—	—	表土
2	にじみ、黄褐色 10YR5/4	シルト	粘性強い、しまりやや弱い。
3	明黄色 10YR6/6	細灰岩	岩盤層。

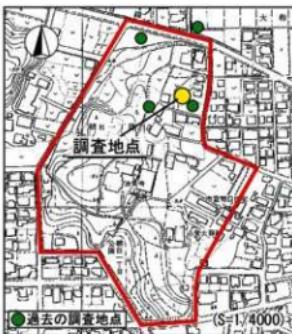
C. 第5地点調査

対象地は遺跡範囲の北東寄りに所在する。地形的には岩沼西部丘陵から派生する二木・朝日丘陵裾部に位置する。

本件は、遺跡範囲内における宅地分譲に際して専用道路を築造する工事のための発掘調査であり、令和3年7月1日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年7月9日付け文第1042号通知）に基づき令和3年7月28日に実施している。

調査は道路築造予定範囲内に東西3m・南北2mのトレンチを3か所設定し、西から1トレンチ、2トレンチ及び3トレンチと付番した。1トレンチは1層～3層の盛土等を重機で掘り下げた後、現地表下約70cmの層位で確認された黒褐色粘質シルトを主体とする4層部分を人力で掘削し精査を行ったが、遺構や遺物は確認されなかった。2トレンチについても同様に、1層～3層の盛土等を重機で掘り下げた後、4層からは人力で掘削を行い、黒褐色粘質シルトを主体とする6層の上面で精査を行った。2トレンチの西側では柱列を検出したが、上方からの掘り込みであり現代の遺構と判断した。遺物は、3層中から近世の陶磁器片が見つかっているが、いずれも小片のため図示していない。3トレンチは、現地表下約80cmまで重機及び人力を用いて掘削したが、湧水が激しく壁面崩落の恐れが生じたことから、それ以後の調査を断念した。

以上の結果から、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第15図 朝日遺跡（第5地点）位置図

第2章 合成3・4年度の調査成果

3. 朝日遺跡（第5地点調査）

S=1/60

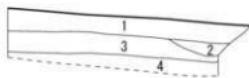
S=1/60

W

北壁

E

6.0m



1 トレンチ断面図

W

北壁

E

5.0m



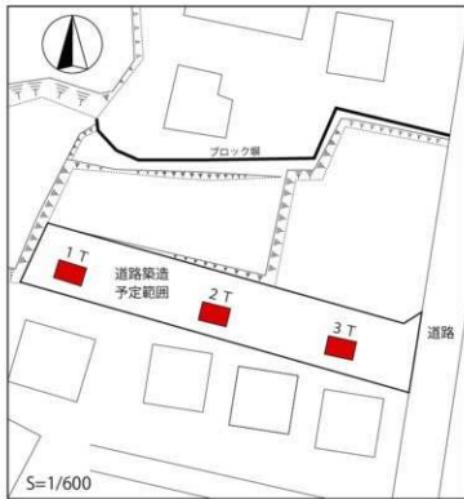
2 トレンチ断面図

1 トレンチ 土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	黒褐色	10YR3/2 シルト	表土。砂石少量化。
2	暗褐色	10YR3/3 シルト	盛土。ローム粒を少量化。
3	明黄褐色	10YR6/6 シルト	盛土。凝灰岩ブロック、ロームブロックを多量に含む。
4	黒褐色	10YR2/3 粘質シルト	しまりやや強い。粘性強い。橙色のローム粒をごく微量に含む。

2 トレンチ 土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	暗褐色	10YR3/3 シルト	耕作土主体。現代陶磁器を含む。
2	黒褐色	10YR2/2 粘質シルト	耕作土小ブロックを微量に含む。
3	暗褐色	10YR3/1 粘質シルト	凝灰岩小ブロックをやや多く含む。近世陶器出土。
4	明黄褐色	10YR6/6 砂質シルト	山砂主体。3層を少量化。
5	黒褐色	10YR3/1 粘質シルト	凝灰岩小塊を微量に含む。
6	黒褐色	10YR2/3 粘質シルト	しまりやや強い。粘性強い。橙色のローム粒をごく微量に含む。



3 トレンチ柱状図

第16図 第5地点トレンチ配置図・断面図・柱状図

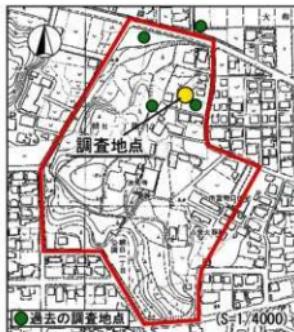
3. 朝日遺跡（第6地点調査）

D. 第6地点調査

対象地は遺跡範囲の北東寄りに所在する。地形的には岩沼西部丘陵から派生する二木・朝日丘陵裾部に位置する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和3年10月8日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年10月20日付け文第2004号通知）に基づき新築住宅部の調査を実施する予定であったが、工事関係者間における情報共有体制の不備等により、調査実施前の令和3年11月13日に柱状改良工事が行われる事態に至った。このことから、申請者より宮城県教育委員会教育長宛てに令和3年12月11日付けで始末書が提出され、これを受けて令和4年1月5日付け文第5520号で通知のあった「文化財保護法の遵守について」に基づき、令和4年1月12日に敷地内の調査を実施した。

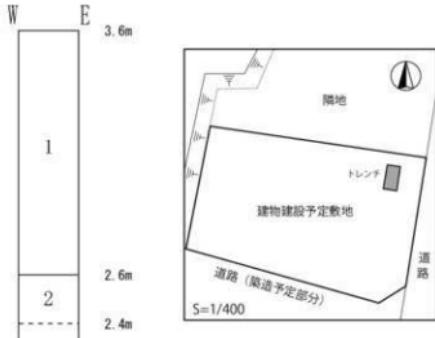
調査では、東西2m×南北3mのトレンチを設定し、重機と人力にて現地表面下約120cmまで掘削を行ったが、遺構・遺物は発見されなかった。湧水が激しくなった影響もあり、これより下位の調査は断念し、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行って調査を終了した。



第17図 朝日遺跡（第6地点）位置図



トレンチ北側壁面（南から）



土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	褐色	10YR4/4 砂石	一部グライ化。
2	黒褐色	10YR3/1 粘土	粘性強い。しまり弱い。

第18図 第6地点柱状図・トレンチ配置図

3. 朝日遺跡（第7地点調査）

E. 第7地点調査

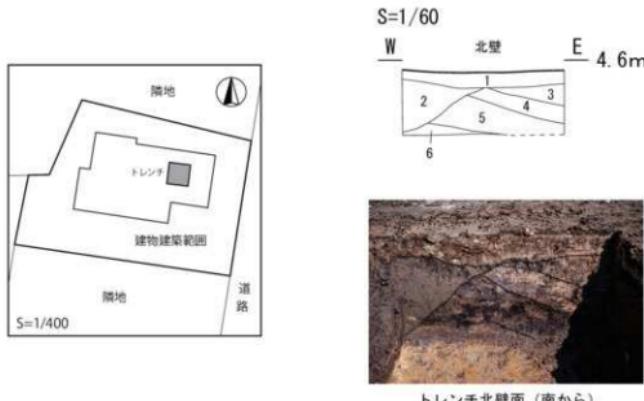
対象地は遺跡範囲の北東寄りに所在する。地形的には岩沼西部丘陵から派生する二木・朝日丘陵裾部に位置する。

本件は、遺跡範囲内における個人宅新築工事のための発掘調査であり、令和4年2月22日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和4年3月4日付け文第6003号通知）に基づき令和4年3月24日に実施している。

調査では、東西2m×南北2mのトレントを設定し、重機と人力にて現地表下約80cmの層位まで掘削を行った。褐色粘質シルトを主体とする6層上面で遺構精査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかつた。その後、さらに下位の土層堆積状況を把握するため、一部で現地表下約110cmまで掘り下げを行つたが、ここでも遺構・遺物は検出されなかつた。土層の堆積状況から、対象地は東側へ傾斜する旧地形であったことが確認されたが、この一帯のこうした様相は周辺の調査事例からも首肯できる。以上の結果から土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第19図 朝日遺跡（第7地点）位置図



トレント北壁面（南から）

土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	一 —	— —	表土
2	暗褐色 10YR3/3	シルト 10YR3/4	焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや強い。
3	暗褐色 10YR3/4	シルト 10YR4/1	焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや強い。
4	褐色 10YR4/1	粘質シルト 10YR2/2	褐色鉄小塊を多量に含む。しまり強い。
5	黒褐色 10YR2/2	粘質シルト 10YR4/1	しまり強い。暗褐色、褐色鉄小塊を多量に含む。
6	褐色 10YR4/1	粘質シルト	しまり極めて強い。暗褐色粘土小ブロックをやや多く含む。

第20図 第7地点トレント配置図・断面図

4. 原遺跡

A. 遺跡の概要

原遺跡は、仙台平野南部域の沖積地を形成する阿武隈川下流域北岸の自然堤防上に立地している。これまでの発掘調査では、大型の掘立柱建物跡や木材堆、土師器や須恵器、円面鏡などが発見され、文献に登場する「玉前駅家」、多賀城跡出土木簡に記された「玉前刻」である可能性を含む古代の複合的遺跡として知られている。

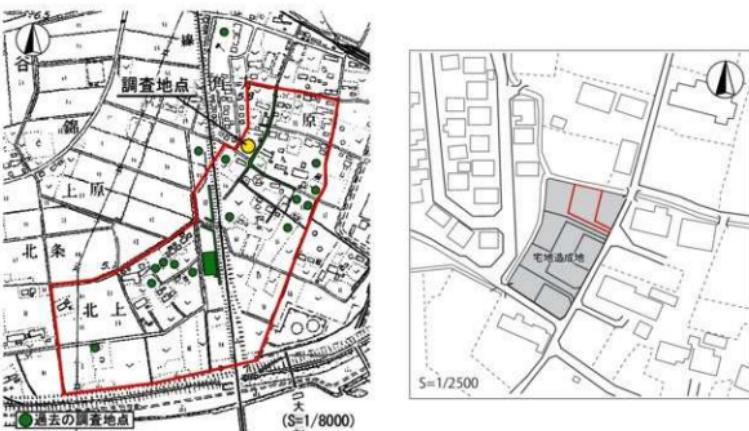
遺跡の範囲・内容を確認するための発掘調査はこれまでに第7次を数えるが、このほか、遺跡範囲内の開発に伴う確認調査も近年は増加傾向にある。特に、令和元年度から計画されていた宅地造成工事については、10区画に分筆した宅地を分譲販売するものであり、令和2年度に第15地点にあたる給排水管集中部の調査を実施したが、各宅地部分については別途協議することになっている。本書において報告する第20・21・22・24・28地点の調査は、この分譲地に新築される住宅の工事に伴うものである。

B. 第20地点調査

対象地は遺跡範囲の北側に位置し、JR常磐線の東側で令和元年度から宅地造成計画が進められた分譲地の一画に該当する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和3年7月7日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年7月16日付け文第1101号通知）に基づき令和3年8月5日に実施している。

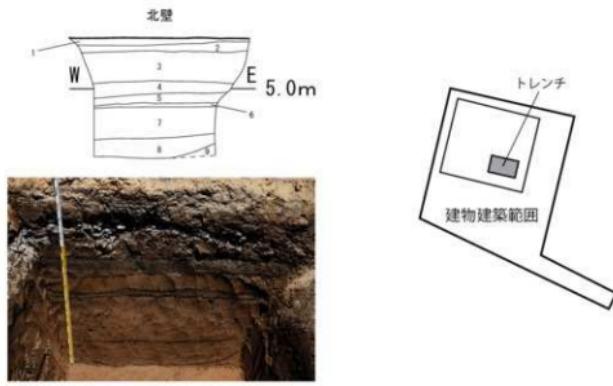
調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレーナーを設定し、重機を用いて1層～7層までを除去した後、現地表面から約120cm下で確認した8層を人力で掘削した。8層は地山層であり、上面で遺構精査を実施したが遺構・遺物は認められず、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第21図 第20地点位置図

4. 原遺跡（第21地点調査）

S=1/60



土層記号

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	明黄褐色	砂	粘性なし。しまりやや弱い。山砂を用いた整地層。
2	灰黄褐色	10YR4/2 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。炭化物を少量含む。表土。
3	灰黄褐色	10YR4/2 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。瓦礫（土間コンクリート）を層状に含む。
4	黒褐色	10YR3/1 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。酸化鉄を含む。
5	褐色	10YR4/4 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。黄褐色砂質シルト粒を少量含む。
6	黒褐色	10YR3/1 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。旧耕作土。
7	暗褐色	10YR3/3 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。旧耕作土。
8	黒褐色	10YR3/2 シルト	粘性やや弱い。しまりやや弱い。
9	黃褐色	2.5YR5/3 砂質シルト	粘性やや弱い。しまりやや弱い。

第22図 第20地点トレンチ配置図・断面図

C. 第21地点調査

対象地は遺跡範囲の北側に位置し、JR常磐線の東側で令和元年度から宅地造成計画が進められていた分譲地の一画に該当する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和3年9月1日付けて提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和3年9月10日付け文第1611号通知）に基づき令和3年9月17日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて1層～7層までを除去した後、現地表面から約120cm下で確認した8層を人力で掘削した。8層は地山層であり、上面で構造精査を実施したが構造は認められなかった。なお、遺物は重機による表土掘削

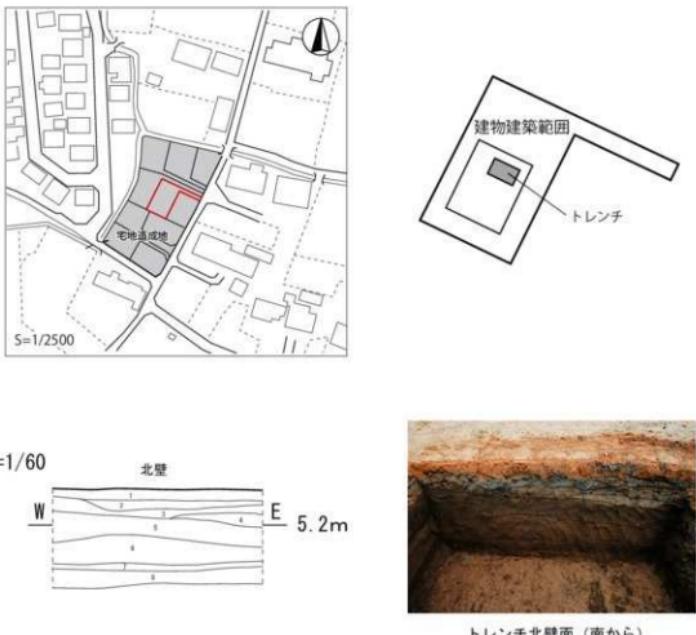


第23図 原遺跡（第21地点）位置図

4. 原遺跡（第21地点調査）

時に土師器や須恵器など古代の遺物が出土している。そのうち、小片以外の図示できる遺物を掲載した。

以上の結果から、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。

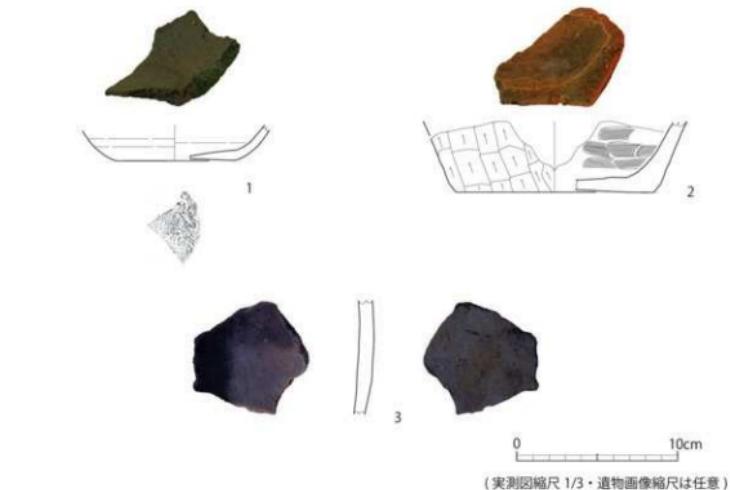


土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	明黄褐色	10YR6/8 砂	粘性なし。しまりやや弱い。山砂を用いた整地層。
2	明青灰色	5B4/1 黏質シルト	粘性やや強い。しまり強い。酸化鉄を含む。
3	灰黄褐色	10YR1/2 黏質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。炭化物を少量含む。瓦礫（土間コンクリート）を層状に含む。
4	褐色	10YR4/4 黏質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。黄褐色砂質シルト粒を少量含む。
5	黒褐色	10YR3/2 黏質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。炭化物粒、燒土粒を少量含む。
6	暗褐色	10YR3/3 黏質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。炭化物粒、燒土粒を少量含む。
7	暗褐色	10YR3/3 黏質シルト	粘性やや強い。しまりやや弱い。上層に黒褐色シルトを層状に含む。
8	黒褐色	10YR3/2 シルト	粘性やや弱い。しまり強い。炭化物粒、燒土粒を少量含む。

第24図 第21地点トレンチ配置図・断面図

4. 原遺跡（第22地点調査）



(実測図縮尺 1/3・遺物画像縮尺は任意)

番号	種別・層位	種別	断面	外 面	内 面	残存	寸法(cm)		
							口幅	底幅	厚さ
1	表土解剖時	黑粘土	片	延辺断面切り木頭型	ロクロナゲ	底部1/4	—	7.4	(2.2)
2	表土解剖時	土解剖	塊	底部ハラナゲ 体部ハラタガリ	ヨコナゲ	底部破片	—	12.4	(4.4)
3	表土解剖時	土解剖	塊	ハラケズリ	ナゲ・ハラミガキ	体部破片	—	—	(7.1)

第25図 第21地点出土遺物

D. 第22地点調査

対象地は遺跡範囲の北側に位置し、JR常磐線の東側で令和元年度から宅地造成計画が進められていた分譲地の一画に該当する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和3年12月10日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年1月5日付け文第5525号通知)に基づき令和4年1月12日に実施している。

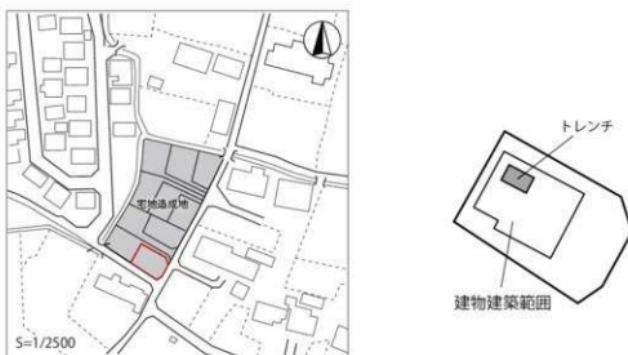
調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて1層～4層までを除去した後、現地表面から約50cm下で確認した5層以下を人力で掘削した。6層は地山層であり、上面で遺構精査を実施したが遺構は検出されなかった。また、遺物は瓦片が表採されているものの、小片のため図示していない。



第26図 原遺跡（第22地点）位置図

4. 原遺跡（第22地点調査）

層位確認のために設定したサブトレンチにおいても様相の変化などは認められなかつたことから、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



トレチ北壁面（南から）



トレチ北壁面層序（南から）

土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	明黄褐色	10YR6/8 砂	粘性なし。しまりやや弱い。
2	灰黄褐色	10YR4/2 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。炭化物を少量含む。
3	灰黄褐色	10YR4/2 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。黄褐色粘土、青灰色粘土小ブロックをやや多く含む。
4	黒褐色	10YR3/1 粘質シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。炭化物粒、焼土粒をわずかに含む。
5	黒褐色	10YR3/2 シルト	粘性やや弱い。しまりやや強い。炭化物粒、焼土粒を少量化。
6	黄褐色	2.5YR5/3 砂質シルト	粘性やや弱い。しまりやや弱い。

第27図 第22地点トレチ配置図・断面図

4. 原遺跡（第23地点調査）

E. 第23地点調査

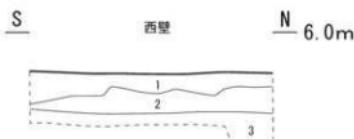
対象地は遺跡範囲の西端に位置している。本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和4年2月22日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和4年3月9日付け文第6047号通知）に基づき令和4年3月31日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西2m×南北3mのトレンチを設定し、重機による掘削を行った。現地表下約50cmで地山層である3層を確認し、この上面で精査を実施したが遺構・遺物は検出されなかった。また、層位確認のために設定したサブトレンチにおいても様相の変化などは認められなかったことから、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第28図 原遺跡（第23地点）位置図

S=1/60



トレンチ北壁面（南から）



土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	一	一	表土。
2	にぶい黄褐色 10YR4/3	砂質シルト	しまりやや強い。灰黃褐色粘質シルトブロックをやや多く含む。
3	鵝灰色 10YR4/1	砂質シルト	しまりやや強い。マンガンを層全体にやや多く含む。炭化物を極めて微量に含む。

第29図 第23地点断面図・トレンチ配置図

F. 第24地点調査

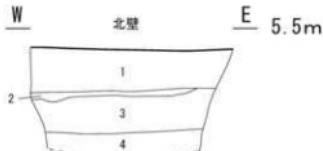
対象地は遺跡範囲の北側に位置し、JR常磐線の東側で令和元年度から宅地造成計画が進められていた分譲地の一画に該当する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和4年6月3日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年6月17日付け文第767号通知)に基づき令和4年6月22日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて表土や盛土を除去した後、現地表面から約70cm下で確認した3層以下を人力で掘削した。その後、暗褐色粘質シルトを基調とする4層上面で構造精査を実施したが遺構は検出されず、遺物は土師器片が表探されたものの、小片のため図示していない。

土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。

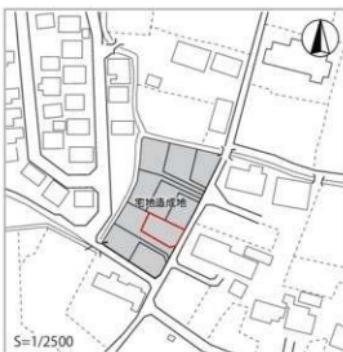
S=1/60



トレンチ北壁面（南から）



第30図 原遺跡（第24地点）位置図



土層注記

層No.	土色	土質	備考
1	—	—	盛土。
2	黒褐色	10YR3/1 シルト	しまり強い、粘性やや弱い、近現代遺物を含む。
3	にぶい、黄褐色	10YR4/3 砂質シルト	しまりやや弱い、粘性やや弱い、酸化鉄をや多く含む。
4	暗褐色	10YR3/3 粘質シルト	しまりやや強い、粘性強い。にぶい、黄褐色砂質シルト小ブロックを含む。部分的にグライ化。

第31図 第24地点断面図・トレンチ配置図

4. 原遺跡（第25地点調査）

G. 第25地点調査

対象地は遺跡範囲の北側に隣接し、令和元年度に実施したライスセンター建築工事に係る第9地点と同じ敷地内に所在する。この時の確認調査では、現地表面下約160cmの層位で深さ5cmほどの浅い溝跡が確認され、このほか盛土層中から土師器もしくは赤焼土器と考えられる摩滅した壺が見つかっている。

本件は、遺跡範囲内におけるライスセンター車庫新築工事のための発掘調査であり、令和4年7月12日付で提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（令和4年7月22日付け文第1141号通知）に基づき令和4年8月2日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西2m×南北3mのトレンチを設定し、重機を用いて盛土層等を除去した後、現地表面から約150cm下で確認した黒褐色粘土を基調とする3層の上面で遺構精査を実施した。この結果、遺構は検出されなかったものの、遺物は3層中から須恵器壺の底部片が出土している。土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。

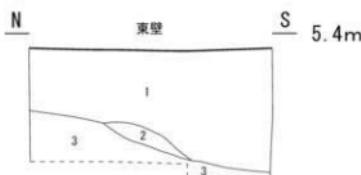


第32図 原遺跡（第25地点）位置図



第33図 第25地点トレンチ配置図

S=1/60



トレンチ東壁面（西から）

土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	—	—	盛土。近現代遺物を含む。
2	にじい黄褐色	10YR4/3 砂質シルト	しまりやや弱い、粘性強い。黒褐色の砂質シルト大ブロックを多く含む。
3	黒褐色	10YR2/1 砂土	しまりやや強い、粘性強い。礫、小石を多く含む。

第34図 第25地点断面図



出土遺物（須恵器）

出土遺物観察表

番号	細部・層位	種別	器種	特 徴
1	3層中	須恵器	环	残存部分の高さ1.9cm。底部へラケズリ。外面剥落。内面リコナザ。

4. 原遺跡（第28地点調査）

H. 第28地点調査

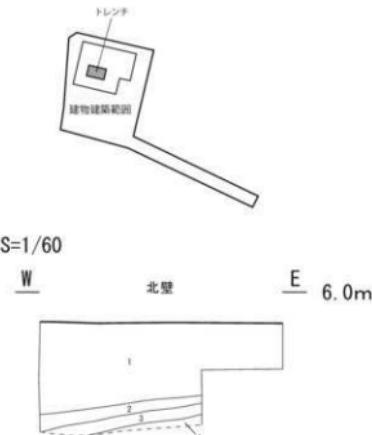
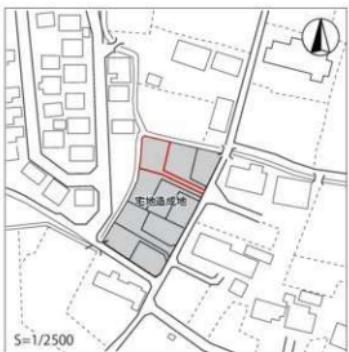
対象地は遺跡範囲の北側に位置し、JR常磐線の東側で令和元年度から宅地造成計画が進められていた分譲地の一画に該当する。

本件は、遺跡範囲内における個人住宅新築工事のための発掘調査であり、令和4年8月30日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年9月9日付け文第1504号通知)に基づき令和4年9月13日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて盛土層等を除去した後、現地表面から約120cm下で確認した褐色シルトを基調とする4層の上面で遺構精査を実施した。精査の結果、遺構は検出されなかったものの、遺物は近世の白磁端反皿碗片が出土している。図示はしていない。土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日中に埋め戻しを行い調査を終了した。



第35図 原遺跡（第28地点）位置図



土層注記

番No.	土色	土質	備考
1	暗褐色	10YR3/3 砂質シルト	最上層は宅地造成時の山砂。以下は現代客土: 人頭大の礫、砂石を多量に含む。
2	褐色	10YR4/4 砂質シルト	山砂主体、褐色粘土小ブロックをやや多く含む。
3	黒褐色	10YR3/1 粘質シルト	しまり強い、粘性強い。2層との境に酸化鉄が集積。白磁端反皿 (19C 中頃か) 出土。
4	褐色	10YR4/4 シルト	しまりやや強い、粘性やや弱い。地山上層からの埴生の影響により面的にグライ化が顕著。

第36図 第28地点トレンチ配置図・断面図

5. 竹駒神社境内遺跡

A. 遺跡の概要

竹駒神社境内遺跡は、JR岩沼駅から南へ約0.9km離れた二木・朝日丘陵南東裾部の竹駒神社境内に位置している。周辺には二木横穴墓群・丸山横穴墓群といった古墳時代後期の遺跡や、平安時代の歌枕として著名な国名勝「おくのほそ道の風景地・武限の松(二木の松)」などが所在する。遺跡範囲は東西約280m、南北約130mで、標高は4m前後である。

遺跡内には神社を構成する建造物が数多く存在し、特に文化9年(1812)建立の隨身門(岩沼市有形文化財)、天保13年(1842)建立の向唐門(宮城県有形文化財)、昭和13年(1938)に開館した馬事博物館(国登録有形文化財)は彫刻や意匠に優れた文化財として知られている。

本遺跡では、平成19年(2007)に行われた向唐門の解体修復および耐震補強工事に伴う第1地点の調査において、中世から近世後期にわたる3時期の遺構面が確認されている。このうち、第1層は天保13年の向唐門建立時における整地面と考えられ、総重量が40~50tにも及ぶ門を支えるため、地下1.7mまで根石を詰め込んだ柱穴構造が明らかになった。また、第2層では、宝永7年(1710)に伊達吉村の寄進で行われた本殿改修時のものと考えられる整地面が確認されたほか、旧参道やそれに面する柱列、神事に関連した遺構なども見つかっている。

B. 第4地点調査

対象地は遺跡範囲の中央部に所在する。本件は、竹駒神社境内における脇参道鳥居新設工事のための発掘調査であり、令和4年5月24日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年6月10日付け文第671号通知)に基づき令和4年6月17日に実施している。

調査では、鳥居の新設予定地に東西1.2m×南北2.2mのトレンチを2か所設定し、東側を1トレンチ、西側を2トレンチとした。どちらのトレンチにおいても、地表面下約70cmで確認した暗褐色粘質シルトを基調とする5層までを重機を用いて掘削し、その上面で遺構精査を行った。遺構精査の結果、1トレンチではSK01土坑とSD01溝跡、2トレンチではSD02溝跡とP1~P3のピット及びSX01性格不明遺構が確認された。遺物は1トレンチの4層上部から近世陶器片が出土しているが、小片のため図示していない。

SD01溝跡については、遺構の一部を人力で掘り下げて様相の把握に努めた。規模は全形が検出されていないため不明であるが、上端幅は約1m、確認面からの深さは約70cmである。逆台形の断面形状を呈する自然堆積層であり、堆積土は3層で、黒褐色の粘質シルトと黒色粘土及び暗褐色粘質シルトからなる。2トレンチで検出されたSD02溝跡は同一遺構の可能性もあるが、両トレンチの間に石敷きの神社参道が敷設されているため、現状においてこれを確認することは困難である。なお、本遺構から遺物は出土していない。

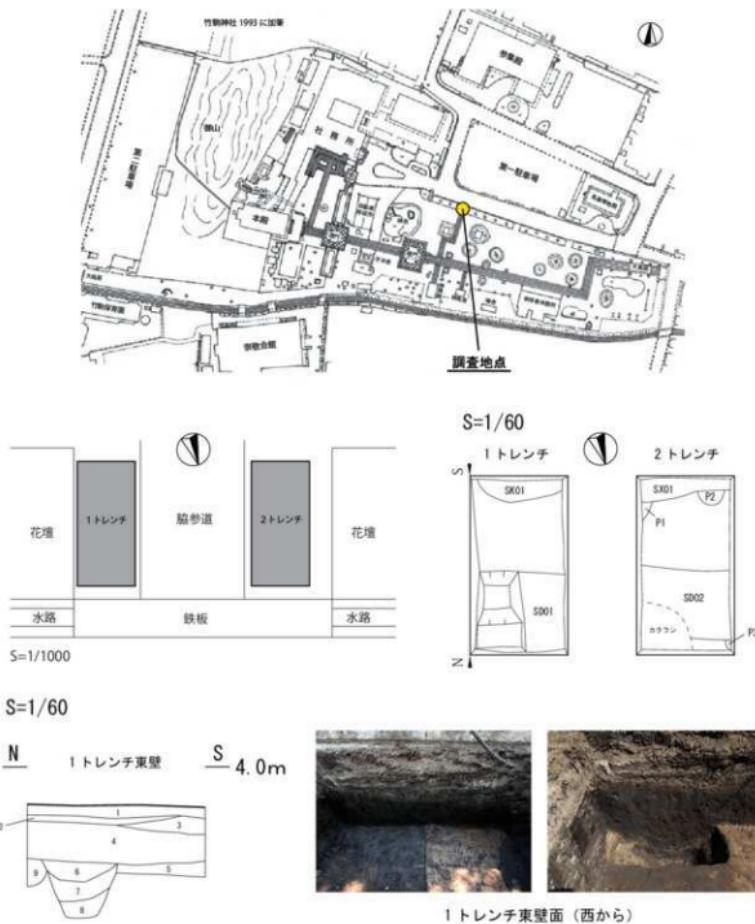
以上の結果から、土層記録作業、写真撮影等を行った後、調査を終了した。



竹駒神社境内遺跡(第4地点)位置図

第2章 合成3・4年度の調査成果

5. 竹駒神社境内遺跡（第4地点調査）



1 トレンチ東壁面（西から）

土層注記

番号	土色	土質	備考
1	暗褐色	10YR3/3 砂質シルト	現代の整地層。コンクリートブロック片を含む。
2	暗褐色	10YR3/3 砂質シルト	しまり強い。粘性なし。
3	黒褐色	10YR3/2 シルト	しまりやや強い。粘性なし。
4	黒褐色	10YR2/2 シルト	しまりやや弱い。粘性やや弱い。上部から近世陶器片が出土。
5	暗褐色	10YR3/3 砂質シルト	しまり弱い。粘性強い。酸化鉄を多く含む。
6	黒褐色	10YR2/2 砂質シルト	しまり弱い。粘性強い。酸化鉄を多く含む。
7	黒色	10YR2/1 砂土	しまりやや弱い。粘性やや強い。酸化鉄を多く含む。
8	暗褐色	10YR3/3 粘土	しまりやや弱い。粘性やや弱い。酸化鉄を多く含む。
9	暗褐色	10YR3/3 粘土	しまり弱い。粘性やや強い。褐色粘土粒を多量に含む。

第38図 第4地点調査地点図・トレンチ配置図・平面図・断面図

C. 第5地点調査

対象地は遺跡範囲の中央部に所在する。本件は、竹駒神社境内における倉庫新築工事のための発掘調査であり、令和4年11月2日付けで提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(令和4年11月15日付け文第2146号通知)に基づき令和4年11月17日に実施している。

調査では、建物建築予定範囲内に東西3m×南北2mのトレンチを設定し、重機を用いて表土や盛土を除去した後、現地表面から約70cm下で確認した4層以下を人力で掘削した。4層上面で遺構精査を実施したが遺構・遺物は検出されず、さらに下位の土層堆積状況を把握するため、一部で現地表下約110cmまで掘り下げを行ったが、ここでも遺構・遺物は検出されなかった。土層の堆積状況から、対象地は南西側へ傾斜する旧地形であったことが確認されたが、こうした様相は本遺跡地の南側に存在する内矢来堀の影響が考えられる。また、対象地では現地表面下約40cmの深さまで表層改良を行っている状況が確認できた。周辺の調査事例では、GL-30cm程度で近世の遺構面が確認されているため、この地点においては、それらはすべて失われているものと推察される。なお、搅乱は以前まで存在していた鳩舎の基礎跡である。以上の結果から、土層記録作業、写真撮影を実施した後、同日に埋め戻しを行い調査を終了した。



第39図

竹駒神社境内遺跡(第5地点)位置図

S=1/60



第40図 第5地点断面図



トレンチ北壁面（南から）



サブトレンチ北壁面（南から）

土層注記

層 No.	土 色	土 質	備 考
1	—	—	表土。
2	—	—	表層改良層①
3	—	—	表層改良層②
4	黒褐色	10YR3/1 シルト	しまり弱い、粘性弱い、上面に炭化物を微量に含む。
5	にぶい、黄褐色	10YR4/3 黏質シルト	しまりやや強い、粘性やや強い、自然堆積形成土。

第2章 令和3・4年度の調査成果

5. 竹駒神社境内遺跡（第5地点調査）



第41図 第5地点調査地点図



作業前風景



作業風景

【引用・参考文献】

- 岩沼市史編纂委員会 1984 『岩沼市史』 岩沼市
- 岩沼市教育委員会 2004 『鶴ヶ崎城跡・第2地点』 岩沼市文化財調査報告書第3集
- 岩沼市教育委員会 2004 『鶴ヶ崎城跡・第3地点』 岩沼市文化財調査報告書第4集
- 岩沼市教育委員会 2005 『鶴ヶ崎城跡・第4地点』 岩沼市文化財調査報告書第6集
- 岩沼市教育委員会 2009 『竹駒神社境内遺跡』 岩沼市文化財調査報告書第8集
- 岩沼市教育委員会 2018 『原遺跡第2次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第19集
- 岩沼市教育委員会 2019 『原遺跡第3次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第21集
- 岩沼市教育委員会 2019 『市内遺跡調査報告書1』 岩沼市文化財調査報告書第22集
- 岩沼市教育委員会 2020 『原遺跡第4次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第24集
- 岩沼市教育委員会 2020 『市内遺跡調査報告書2』 岩沼市文化財調査報告書第25集
- 岩沼市教育委員会 2021 『原遺跡第1次調査ほか』 岩沼市文化財調査報告書第26集
- 岩沼市教育委員会 2021 『原遺跡第5次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第27集
- 岩沼市教育委員会 2021 『市内遺跡調査報告書3』 岩沼市文化財調査報告書第28集
- 岩沼市教育委員会 2022 『原遺跡第6次調査概要報告書』 岩沼市文化財調査報告書第29集
- 岩沼市史編纂委員会 2015 『岩沼市史』 第4巻 資料編I 考古
- 岩沼市史編纂委員会 2018 『岩沼市史』 第1巻 通史編I 原始・古代・中世
- 竹駒神社 1993 『竹駒神社』 資料篇
- 東北福祉大学吉井ゼミナール 2011 『鶴ヶ崎城跡（岩沼要害）第10次発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	しなりゅうせきはつくつちょうさほうこくしょ						
書名	市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次	4						
シリーズ名	岩沼市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第31集						
編集者名	川又隆央・熊谷 駿・黒岩凌太						
編集機関	岩沼市教育委員会						
所在地	〒 989-2480 宮城県岩沼市桜一丁目 6 番 20 号 TEL(0223) - 23 - 0844						
発行年月日	西暦 2023 年 3 月 31 日						
所収道路	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
	(市町村)	(市町村) 遺跡番号	= ° P	= ° E			
鶴ヶ崎城跡 (第 26 地点)	岩沼市鶴下三丁目	42111 15023	38.06.48	140.52.00	2021.07.07	6 m ²	個人住宅
鶴ヶ崎城跡 (第 27 地点)	岩沼市鶴下三丁目	42111 15023	38.06.51	140.51.57	2023.01.26	6 m ²	個人住宅
新田道跡 (第 1 地点)	岩沼市北長谷 字細新田	42111 15033	38.06.37	140.50.48	2022.09.21 ～ 2022.09.22	64 m ²	宅地造成
朝日道跡 (第 4 地点)	岩沼市朝日一丁目	42111 15038	38.06.59	140.51.34	2021.05.11	70 m ²	擁壁設置
朝日道跡 (第 5 地点)	岩沼市朝日一丁目	42111 15038	38.06.60	140.51.35	2021.07.28	6 m ²	道路築造
朝日道跡 (第 6 地点)	岩沼市朝日一丁目	42111 15038	38.07.00	140.51.36	2022.01.12	6 m ²	個人住宅
朝日道跡 (第 7 地点)	岩沼市朝日一丁目	42111 15038	38.07.00	140.51.35	2022.03.24	4 m ²	個人住宅
原道跡 (第 20 地点)	岩沼市南長谷 字角方	42111 15053	38.05.13	140.51.11	2021.08.05	6 m ²	個人住宅
原道跡 (第 21 地点)	岩沼市南長谷 字角方	42111 15053	38.05.12	140.51.11	2021.09.17	6 m ²	個人住宅
原道跡 (第 22 地点)	岩沼市南長谷字原	42111 15053	38.05.11	140.51.11	2022.01.12	6 m ²	個人住宅
原道跡 (第 23 地点)	岩沼市南長谷 字上原	42111 15053	38.05.00	140.50.54	2022.03.31	6 m ²	個人住宅
原道跡 (第 24 地点)	岩沼市南長谷字原	42111 15053	38.05.11	140.51.11	2022.06.22	6 m ²	個人住宅
原道跡 (第 25 地点)	岩沼市南長谷 字上原	42111 15053	38.05.12	140.51.06	2022.08.02	6 m ²	ライス センター 車庫
原道跡 (第 28 地点)	岩沼市南長谷 字角方	42111 15053	38.05.13	140.51.11	2022.09.13	6 m ²	個人住宅
竹駒神社境内遺跡 (第 4 地点)	岩沼市船荷町	42111 15056	38.06.17	140.51.47	2022.05.10	5.28 m ²	鳥居新設
竹駒神社境内遺跡 (第 5 地点)	岩沼市船荷町	42111 15056	38.06.15	140.51.48	2022.11.17	6 m ²	境内倉庫

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶴ヶ崎城跡 (第 26 地点)	集落跡・城館	縄文・弥生・中世・近世	なし	なし	
鶴ヶ崎城跡 (第 27 地点)	集落跡・城館	縄文・弥生・中世・近世	なし	近世陶磁器	
新田遺跡 (第 1 地点)	散布地	縄文・古墳・古代	ピット	弥生土器	
朝日遺跡 (第 4 地点)	散布地	古墳・古代・中世	なし	なし	
朝日遺跡 (第 5 地点)	散布地	古墳・古代・中世	なし	近世陶磁器	
朝日遺跡 (第 6 地点)	散布地	古墳・古代・中世	なし	なし	
朝日遺跡 (第 7 地点)	散布地	古墳・古代・中世	なし	なし	東側へ傾斜する旧地形を確認
原遺跡 (第 20 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	なし	
原遺跡 (第 21 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	土師器 須恵器	
原遺跡 (第 22 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	瓦	
原遺跡 (第 23 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	なし	
原遺跡 (第 24 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	土師器	
原遺跡 (第 25 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	須恵器	
原遺跡 (第 28 地点)	官衙関連施設 集落跡	古墳・古代	なし	近世陶磁器	
竹駒神社境内遺跡 (第 4 地点)	社寺	中世・近世	土坑 溝跡 ピット	近世陶磁器	1トレンチの SD01 溝跡と2トレンチの SD02 溝跡は同一遺構の可能性がある
竹駒神社境内遺跡 (第 5 地点)	社寺	中世・近世	なし	なし	南西側へ傾斜する旧地形を確認
要 約	新田遺跡の第1地点における調査では4トレンチから弥生土器片が出土した。 玉前駅家などに隣接する古代の複合遺跡とみられる原遺跡では、第 21・24・25 地点の調査において土師器や須恵器を発見した。 竹駒神社境内遺跡の第4地点における調査では、1トレンチと2トレンチでそれぞれ溝跡が検出されているが、これらは同一遺構の可能性がある。				

岩沼市文化財調査報告書第31集
市内遺跡発掘調査報告書4

令和5年(2023)3月
発行 岩沼市教育委員会

岩沼市桜一丁目6番20号
生涯学習課 TEL 0223(23)0844

印刷 株式会社クニイ&コミュニケーションズ
岩沼市藤浪一丁目4番35号
TEL 0223(22)2221